

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校 学校番号 37

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>校訓「至誠勤労・質実剛健」の下、「いのちを育み そして いのちから学ぶ」をスローガンに、夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進し、広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>【教育方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人や自然を愛する豊かな情操、次代を生き抜く健やかな心身を育てる。 2 確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する力を育てる。 3 産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる人材を育てる。 		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』 グロデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりと協働の精神を培い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、自ら考え行動し、主体的かつ協働的に課題を解決していける生徒 ・産業人として必要な豊かな人間性を育み、地域社会や産業界に貢献できる生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・体験的な学習活動を通して学び、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質・能力を育成 ・主体的・対話的で深い学びを実践するプロジェクト学習により、科学的な思考力・判断力・表現力を養い、課題解決能力と実践力を育成 ・生徒一人ひとりの個性や長所を十分に伸ばす、個に応じた細かな指導の実施 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物や動物を育てること、食や環境など本校の学習内容に興味・関心がある生徒 ・実験・実習などの実践的・体験的な学習に、意欲的に取り組める生徒 ・将来、食料供給・環境創造などの各分野について大学等で学習を深めたり、農業や関連産業で地域貢献しようとする生徒

3	評価する領域・分野	◇学校運営	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念のもと、「社会に開かれた教育課程」の作成が求められている。 ②「ふるさと教育」の充実、地域との連携が求められている。 ③教員の働き方「時間外勤務時間月45時間、年360時間」が注目されている。	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	①「社会に開かれた教育課程」の作成 ②「加茂農林で学べてよかった」と思わせる教科・生徒・進路の各指導 ③時間外勤務時間の短縮の啓発と事後検証による改善を目指す。	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	①校内の各分掌等において具現化し実施する。 ②学校運営協議会における意見・アドバイスを活用する。	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	①学びの3要素を明確に示した授業改善を通し、確かな学力を身につけさせる。 ②ICT等を活用した授業の実施と研究授業による活用方法の研究を行う。 ③時間外勤務の軽減。	①学校評価アンケート「教員、学習指導」における評価の上昇 ②学校運営協議会での指導・意見 ③時間外勤務時間とストレスチェックの結果	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	①学びの3要素を明確に示した授業改善を通し、確かな学力を身につけさせる授業改善 ②ICT等を活用した授業の開発・採点システムの利用 ③勤務の割振、8の日、早帰りの日を意識した時間外勤務の軽減と正確・正直な勤次郎の打刻	①学校評価アンケートの教職員、学習指導に関する項目の評価 ②校内研修、教育委員会の研修への参加 ③割振の実施状況と勤次郎による勤務状況の把握	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12	成果課題	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教職員が協働し、ICT等を活用した授業、採点システムの利用が確実に進んだ。活用方法の共有が必要となる。 業務アシスタント、農場支援員、特別支援教育支援員の導入により確実に業務軽減と効率化が進んでいる。さらに業務の合理的分担が必要である。 新型コロナウイルス感染症への対応が変化し、学校行事がコロナ禍前の状態へと戻りつつあるが、単に元に戻るのではなく、内容を検証し、今に合った形での実施を模索する必要がある。 	
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の適切な実施。カリキュラムマネジメント、「PDCAサイクル」の構築を進める。 県が進める働き方改革、時間外勤務時間の短縮に向けた取り組みを推進する。 新型コロナウイルス感染症等感染症感染予防に取組ながら、開かれた学校運営を推進する。 	

3 評価する領域・分野	◇教務部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○令和4年度学校評価アンケートより ①ICTを利用した授業に対して肯定的な意見が10%向上した。ICTの活用を生徒に定着させたい。 ②参加する機会の減少で保護者の学校活動について認知が低い	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1. ICT環境の活用と「わかる授業」の実施。 (1) 公開・研究授業の実施と職員研修による授業の改善活動。 (2) 生徒がICTを活用する機会を多く持たせる。 2. 2年目の改善と定着を図った観点別評価についての研修の実施 3. 学校行事等の積極的な広報活動 (HP, すぐメール等)	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	授業を軸に、各部との連携を図り、チームで規律を確立する。 外部組織への積極的な研修活動 (総合教育センター、企業)	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) - 1 職員研修や研究・公開授業の実施 (1) - 2 ICT機器の活用から授業改善を図る (2) 観点別評価に係る研修の実施 (3) HPやメールによる学校行事等の広報	(1)-1 職員の意識 (参観率) と生徒の評価 (授業アンケート) は向上したか。 (1)-2 ICT機器を活用した授業が行われたか。生徒が活用する機会を多く設定できたか。 (2) 評価に係る研修の機会を設けたか。 (3) 令和4年度よりも保護者に広報できたか。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①職員研修と公開授業の実施とその参加率 ②ICT機器の授業への積極的な活用 ③観点別評価に係る研修の実施 ④HPやメール利用した学校行事の広報活動	①研修の実施・参観の感想の収集 ②ICTを生徒に活用させる機会が増えたか。 ③観点別評価に係る研修が実施されたか。 ④学校評価アンケートで保護者の学校への理解度は上がったか。	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
12 成果・課題	総合評価	
○観点別評価の研修を行い、評価方法への理解を深めることができた。 ○公開授業週間を2回計画し実施することができた。 ○ManabaやMetamojiなど、通常の授業で多く取り入れられている。ICTを利用した授業に対して高い評価を維持できた。(学校評価アンケートより) ○保護者が学校のホームページやすぐメールなどを利用し学校行事への理解度が上がった。(学校評価アンケートより) ▲観点別評価の実施について、10段階評価について本校の教育活動に即しているか検討が必要である。	A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	
13 来年度に向けての改善方策案 ・来年度も「授業改善」に力を入れ、引き続きICTを活用した「わかる授業づくり」を推進していく。 ・他者への授業内での迷惑行為は減少傾向にあるが、携帯や居眠りなど授業への取組の視点で、「授業規律」再確認が必要である。 ・観点別評価を行っていく上で、10段階評価について内規の見直しも含めて検討していく必要がある。		

3 評価する領域・分野	◇生徒指導																									
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度の問題行動は、喫煙 2 件、いじめ認知 3 件（うち重大事態 1 件）自転車事故 13 件（対物 10 件、自損 3 件）、情報モラル違反 1 件、転退学者 5 名であった。生徒指導上の問題行動は年々減少しているが、欠席者数が大幅に増加した。																									
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考えて行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生徒指導を図る。 ① 命を守り、生活を守る ・交通安全の徹底（ヘルメットの着用推進） ・生活安全の徹底（スマホ・ネットの使い方、情報モラル） ② 生徒の自立を促す生徒指導 ・社会的自立：元気な挨拶、時間を守る、身なりを整える ・精神的自立：物事の善悪を判断できる、思いやりの心、高い人権意識 ③ 生徒指導部から生徒支援部への組織変更																									
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	学科・学年会との連携及び教育相談組織の活用																									
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標																									
① いじめ・人権に反する行動を見逃さない。規範意識の向上と問題行動の未然防止に取り組む。 ② 挨拶を中心とした生徒の自主的な活動。 ③ 交通ルールの遵守を徹底させ、自転車等の安全運転を身につけさせる ④ 教育相談を機能させ、生徒個人及び集団のよりよい学校生活を実現させる。（SC,S相の活用） ⑤ スマホ、ネットなどの情報モラルの徹底。 ⑥ 社会的自立を目指し、基本的生活習慣を確立させる。	① いじめ認定 0 件、問題行動事案 5 件以下 ② 生徒会、MS リーダーズを中心とした挨拶活動 ③ 交通事故、自転車事故件数 5 件以下 ④ 教育相談室、校内教育支援センターの活用状況 ⑤ 情報モラル違反事案 0 件 ⑥ 欠席総数 500 以下、遅刻総数 200 以下、清楚な身だしなみでの学校生活																									
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																								
① いじめ調査、授業規律アンケートの利用 ② MS リーダーズの活動実践 ③ 交通安全教室の実施 ④ SC、S相を活用、心のアンケートによる早期発見と支援体制づくり ⑤ 情報モラル講話の実施 ⑥ 遅刻指導の充実	① いじめ認定数、問題行動事案件数 ② 挨拶活動の実践回数 ③ 交通事故件数 ④ 不登校者数、カウンセリングの実施状況 ⑤ 情報モラル違反件数 ⑥ 欠席、遅刻者数	<table border="0"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																							
A	B	C	D																							
A	B	C	D																							
A	B	C	D																							
A	B	C	D																							
A	B	C	D																							
12 成果 ・課題	① 問題行動：2 件（飲酒、提出物不正） いじめ事案：5 件 ② 挨拶活動 毎週木曜日実施 ③ 交通事故：（対物：6 件、自損：1 件） ④ 欠席 30 日以上の子生：11 人（うち転退学者 4 名） ⑤ 情報モラル違反：4 件 ⑥ 欠席者数：2313 人 遅刻者数：366 人（12 月まで）																									
13 来年度に向けての改善方策	いじめ事案は、生徒間トラブルが多く見られた。コミュニケーション能力を高めていく必要性を強く感じる。欠席者数の大幅増加は、出席停止措置がなくなったことが主たる原因と思われる。あわせて欠席 30 日以上の子生も増えており、次年度以降もこの傾向は続くと思われる。人命に関わる事故はなかったが、自転車安全運転について継続的な指導が必要である。																									

3 評価する領域・分野	◇進路指導部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	ここ数年の感染症の影響などから他者との交流する場が不足し、耐える力、自分で考え主体的に行動する力などが不足しているよう感じられる。自己理解と職業理解を深めていない状態で、安易に進路決定している生徒も多く、力のある生徒が高い目標を持たずに進路を決定していることも多く感じる。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。 ①主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるため、自己理解と職業の理解を深めさせ、自分の力が発揮できる進路を考えさせる。 ② 配置されたタブレットを利用した進路指導を工夫する。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年会、学科、各分掌と連携して実施する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①あらゆる機会を通して、基礎学力を身に付けることの重要性を認識させる。(全学年) ②自己理解を深めさせ、自分に合った進路目標を描かせる機会を設定する。(1年生) ③働く意義や職業についての理解を深めさせ、具体的な進路目標を持たせる。(2年生) ④個々に応じた進路指導を充実させ、希望する進路の実現ができるようにする。(3年生) ⑤挨拶や言葉遣いの指導を通して、進路決定における「挨拶」の重要性を意識させる。	①個別の進学指導、SPI学習会、面接指導等を成果に結びつけることができたか。 ②自分について考えさせ、自分に合った進路目標を持つことができたか。 ③働く意義や職業について理解させ、自分の適性を考えて進路目標を持たせることができたか。 ④適性や学力など、様々な観点から判断し望ましい進路選択をさせることができたか。 ⑤昨年度より挨拶ができる生徒が増加しているか。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・基礎学力を身に付けさせる取り組み、進路個別の学習指導が行われた。 ・個々に応じた進路指導がなされ、適切なアドバイスをを行うことができた。 ・挨拶指導、就職進学個別の面接指導を行った	・学力が向上したか ・希望する進路選択をさせることができたか。 ・挨拶ができ、面接の力が身に付いたか	A B ○ C D A ○ B C D A ○ B C D
12 成果 ・課題	3年担任・科長・進路指導部職員などにより企業訪問や新規企業開拓などを行い、就職希望者の希望する進路実現をさせることができた。 公務員に3名(海上自衛隊、岐阜県警察②)が合格した。 国立大受験者への個別進学指導を行ったが合格者を出せなかった。高い目標を持たせながら、自分の学力にあった大学を選択させ、小論文・口頭試問、面接などの個別指導を行う必要がある。 1・2年生の校内選抜ポイントの見直しを行った。	総合評価 A B ○ C D
13 来年度に向けての改善方策案	・3年生の進路意識を高めるために「卒業生と語る会」(4月)を計画。 ・1・2年の希望者を対象に大学見学会(8月)を計画。 ・国立大受験者・看護専門学校受験者に対する指導体制の充実。 ・企業開拓	

3 評価する領域・分野	◇農場部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校に入学できて良かったと思っている生徒が多く、本校の専門の学習への興味関心が高い生徒が多い。特に今年度は入試での倍率も高く優秀な生徒獲得できた。 ・保護者の本校の農業教育に対する理解も高く、好意的な評価をいただいている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習の安全 実習環境の改善 ・専門学習の充実 プロジェクト活動の活性化と資格取得指導の計画的実施 ・難関大学への進学率を徐々に上げていく 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長を中心として各学科（学科職員全員）で取り組む。 ・農場組織の農場安全教育部の活動を推進し、農業科職員全員で連携を図る。 ・進路指導部や普通科と学科が連携を図る。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 危険箇所と事故防止策の確認 (2) 備品・薬品管理の徹底 (3) 地域や外部と連携したプロジェクト活動 (4) 進路指導、普通科、学科が連携した進路指導の確立	(1) 実験実習中の安全指導について見直しと改善が図れたか (2) 備品と薬品の管理は適正にできたか (3) プロジェクト活動が地域や外部と積極的に連携して実施できたか (4) 進路指導組織の確立と運営ができたか	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①事故防止に向けての定期的な注意喚起、安全マニュアルの見直し ②備品台帳の整備、薬品簿の記載と管理、不要薬品の廃棄 ③各科におけるプロジェクト活動の推進と積極的な地域連携 ④四年制大学進学に向けての計画的な進路指導、資格取得指導	①実験実習における事故怪我の有無 ②備品と薬品の管理状況確認 ③地域連携活動の効果と内容の検証 ④大学進学率、資格取得率	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな怪我、事故はなかったが、今後も発生した場合、状況の情報共有を行い、更なる防止に努めたい。 ・不要な薬品はほぼ処分できたが、備品についてはまだ進んでいない。 ・コロナ前の活動に戻ることが出来た。全国大会で優秀賞を獲得した。 ・国立大学合格者が2名出たが、全員の希望を叶えることはできなかった。 	
13 後期に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・事故・怪我を無くす事ができるように、注意喚起を含め引き続き取り組んでいきたい。 ・不要備品を引き続き処分し、備品の整理を順次行いたい。 ・国立大学進学者向けの指導体制を構築し、進学者数増加を目指す。 	
	総合評価 A (B) C D	

学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月29日

【意見・要望・評価等】

- ・農業高校には動物が好き、植物が好きといった命に興味・関心があり、やる気のある生徒が多くいる。好きでやるとき生徒の道は開ける。先生方には生徒を励まし、導いてほしい。
- ・資格取得に積極的に取り組んでいる。資格は一生ものである。専門教科の教員と普通教科の教員の連携を密に図り、普通教科の授業においても資格試験の内容を意識して、授業展開を工夫する必要がある。
- ・自転車乗車時のヘルメット着用について、生徒の安全を考え着用を推進してほしい。義務教育ではよく徹底されており、ヘルメットをかぶっていたことで大事に至らなかった事例は多くある。
- ・農業クラブ全国大会での最優秀賞受賞、和牛甲子園での最優秀賞受賞など成果が出ている。今後も生徒相互、農業高校相互に切磋琢磨して研究に取り組んでほしい。先輩から後輩へ学びのバトンを渡すことはとても大切である。先輩の成果を引き継ぎ、今後、後輩たちが更に活躍することを期待する。
- ・学校として課題をしっかりとらえて目標設定がなされ、目標を達成するための具体的な取組が各分掌で行われていることにより、生徒の学習成果に繋がっている。様々な分野で生徒が活躍できている。